

プログラム番号	06049
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	九州大学 大学院総合理工学府		
②学長名	梶山 千里		
③所在地	〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	筑紫地区事務部教務課学生係・係員	
	担当者氏名	黒添 俊英	e-mailアドレス wwwadmin@tj.kyushu-u.ac.jp
	電話・FAX番号	092-583-7512 ・ 092-583-8988	
⑤ホームページURL	http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	987人(うち、国費留学生 282人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	環境調和型科学技術開発を目指す研究留学生のための育成プログラム
②プログラムの形態	博士後期課程(3年間)
③実施研究科・専攻	大学院総合理工学府 物質理工学専攻
	(所在地) 〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1
④連携大学・研究科・専攻名	大学院総合理工学府 量子プロセス理工学専攻, 先端エネルギー理工学専攻 環境エネルギー工学専攻, 大気海洋環境システム学専攻
⑤受入れ学生数	13人(うち研究留学生優先配置人数: 8人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 116人(うち専任: 90人、兼任: 5人、非常勤: 21人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院総合理工学府・教授
	学府長名 寺岡 靖剛

【3. プログラムの趣旨】

人類1人1人が健康で快適な生活を享受したいという欲求が、現在、様々な環境問題を引き起こしている。言い換えれば「科学技術の進歩は環境問題を果たして収束させ得るのか」という難問が人類に突きつけられている。このような状況において、持続発展型社会を構築することは重要な課題であり、環境調和型科学技術の確立とその発展が求められている。下図は大学院総合理工学府の組織と教育理念を模式的に示したものである。本学府は、量子プロセス理工学専攻、物質理工学専攻、先端エネルギー理工学専攻、環境エネルギー工学専攻、大気海洋環境システム学専攻の5専攻から成る学部をもたない教育組織である。その教育理念は「物質、エネルギー、環境およびその融合分野における環境調和型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を持ち、持続発展社会の構築のためにグローバルに活躍できる技術者ならびに研究者の育成」にある。このような背景において、本学府は世界各国から優れた学生を受け入れ、物質理工学、エネルギー理工学、環境理工学に精通した技術者・研究者を育成し、世界に送り出すことを目的として、研究留学生特別プログラムとして「環境調和型科学技術開発を目指す研究留学生のための育成プログラム」を設置した。



【プログラムの目標】

1. 世界各国から多くの研究留学生を積極的に受け入れ、5専攻間の強い協力体制と充実した教育システムを活用し、環境調和型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を備えた技術者・研究者を育成する。
2. 大学院教育システムをさらに充実させるとともに複数指導教員体制を組むことにより、総合的かつ有機的な教育と研究留学生1人1人に対する手厚い指導を行う。
3. これまで蓄積してきた教育・研究指導の実績を最大限に活用し、国際社会への知的貢献ならびに大学の国際化と国際競争力の強化につなげる。
4. これまでに構築した海外の大学との研究協力および学術交流を一層充実、発展させ、諸外国との相互理解の増進と修了後の研究者との人的ネットワークの形成・強化を図る。

【教育・指導体制】

〔教育と研究〕

本学府を構成している5専攻は、これまで強い協力体制を組み、物質、エネルギー、環境およびその融合分野における技術者・研究者を育成し、優れた人材を社会に送り出してきた。本学府は学部をもたない教育組織であるため、大学院における教育体制は非常に良く整備され、充実している。実際、本学府修士課程における必修科目、選択必修科目、学府共通科目、専攻間横断科目、異分野体験学習、研究インターンシップなどユニークな授業科目が開設されており、学生教育において大きな成果を上げてきた。本プログラムでは、これまでの実績を踏まえ、博士後期課程においても横断型必修科目を新設した。また、上記カリキュラムの新設は、本学府の教育理念である、物質、エネルギー、環境およびその融合分野に精通した技術者・研究者の育成に大きく貢献するものと確信している。

〔指導体制〕

現在、本学府においては博士後期課程に在籍している学生を直接指導する常勤教員数は95名(教授65名、助教授指導教員30名)である。本プログラムでは、研究留学生1人に対し指導教員と副指導教員を1名ずつ割り当て、複数指導教員制の下、留学生に行き届いた教育・研究指導体制を組む計画である。また、留学生担当講師、外国人教員、学生相談員により手厚い教育研究相談ならびに生活指導を行う。国際化と国際競争力強化に向け、本学府、韓国釜山国立大学校、韓国浦項工科大学校間で毎年開催している3校セミナーをはじめ様々な国際会議に積極的に参加できるよう、経済的支援を行う。さらに、産学連携と密接に関係している総理工セミナーや博士後期課程の学生を対象として開講している研究インターンシップ科目の受講を推奨し、幅広い科学技術の修得を目指す。

【英語授業とカリキュラム】

本プログラムを開設するに当たり、カリキュラムを抜本的に見直し、総合理工学特別講究(物質・材料系)、総合理工学特別講究(エネルギー系)、総合理工学特別講究(環境系)の3科目(各2単位)を横断型必修科目として新設した。この授業科目は、本学府の教育理念を具体化するためのものであり、その目的は、物質理工学、エネルギー理工学、環境理工学を総合的かつ有機的に修得するためのカリキュラムを研究留学生に提供することにある。本プログラムで入学した学生は、修了する3年間にこれら3つの必修科目を履修し、6単位を取得する必要がある。また、留学生が本学府博士後期課程を修了するためには、以下に示すように、専攻授業科目として指導教員が開講する特別講究(4単位)と博士論文演習(2単位)を取得する必要がある。さらに、高度の専門知識と課題探求・解決能力を備えた人材養成のため、博士論文の作成を課す。従って、本プログラムを専攻する研究留学生は、合計12単位を取得する必要がある。以下に、本プログラムで入学する学生の修了要件を記す。

修了要件

○横断型必修授業科目

総合理工学特別講究(物質・材料系)	(2単位)
総合理工学特別講究(エネルギー系)	(2単位)
総合理工学特別講究(環境系)	(2単位)

○専攻授業科目

指導教員が開講する特別講究	(4単位)
指導教員が開講する博士論文演習	(2単位)

○博士論文作成

【募集方法・学内選考方法】

募集方法:

ホームページ記載により世界各国の優秀な人材を広く募集する。

(http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/en/graduate_school/facultylistE.html)

選考方法:

申請者はあらかじめ所属を希望する研究室の教員(予定指導教員)と連絡を取り、卒業大学と修了大学院における成績証明および指導教員からの推薦書を予定指導教員に提出する。予定指導教員および副指導教員は、申請者の学業成績、指導教員の推薦書ならびに直接面接あるいは書面交換等に基づいて事前審査を行う。事前審査において本学府にふさわしい国費外国人留学生と判断された申請者に対し、専攻会議および学府選考会議において総合的に審査して、候補者を文部科学省に推薦する。

(<http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/en/index.html>)